

## 【(2) 教室環境】

### ⑧「個に応じて座席を決めている」

#### 《つまづきの背景》

A 刺激の影響の受けやすさ、H 刺激の選択の困難さ、N 注意の持続の困難さ

#### 《解説》

学級の人間関係や一人一人の子どもの特性を考慮して座席を決めることで、集中しやすくなったり、互いに助け合う関係が生まれたりするなど、学習に取り組みやすくなります。

刺激の影響を受けやすい子どもの場合は、刺激の多い窓際や廊下側の座席は避けます。注意集中が難しい子どもの場合は、後方の座席にすると友達の言動が気になり、気が散りやすくなることが考えられます。その子どもを前から2列目ぐらいにし、前の席にモデルとなる子どもが座るようにすると、その子どもの言動をモデルとして行動しやすくなります。授業内容の理解が難しい子どもの場合は、前方の席にして言葉を掛けやすくなり、机間指導しやすい座席配置にしたりします。その他、学級の子どもの人間関係にも配慮し、「授業への集中」「授業内容の理解」「モデルの存在」などの視点を考慮しつつ、教師の支援の受けやすさなども加味して、学級の実態に合わせて考えることが大切です。

座席の決め方は教師が決める、子どもに考えさせるなどの方法がありますが、いつも同じ座席位置になると気にする子どももいます。子どもの成長に応じて、徐々に自分に合った座席位置が理解できるようにしていくことも大切です。

#### 【工夫点】

- ・ 刺激の影響を受けやすい子どもの座席は窓際にしない。(小中高)
- ・ 特別な教育的支援の必要な子どもを前から2番目の席にし、モデルとなる子どもを見て行動できるようにする。(小中高)

